

学校教育目標	・よく考え、進んで学習する子ども ・思いやりがあり、助け合う子ども ・体力のある、元気な子ども		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・笑顔あふれる学校 ・自ら学び、自ら考える子ども ・「子ども」「授業」「研修」「人の和」を大切にする。	
前年度までの本校の現状	成果	・全教員が協働し、児童の健全育成にあたった。全校体制で「あいさつ励行」に取り組むことによって成果を上げることができた。 ・学年をこえて、一之江二小マナー、学習の約束を基に、学習スタイルの統一を図ることによって、成果をあげることができた。	課題	・ミライシード（ドリルパーク）を活用した学力向上の取り組みの充実を図る。 ・一人一端末を用いたICTを効果的に活用した授業展開の充実を図る。 ・体力、基礎運動能力の向上を図る。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	・学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組	・東京ベーシックドリル診断テストの実施	・年度末実施の診断テストの正答率、85%超	C	C	B	・目標の85%までは届いていないが、ほとんどの学年で結果の向上がみられた。	B	・4月と比べて前年度の内容が理解できているようになっていることが分かって安心した。	B	・学力診断テストの正答率は60～70%だった。	A	・学力診断テストを通して、基礎・基本をしっかりと身に付けることができた。	・次年度も引き続き、学力診断テストを実施していく。
		・家庭学習週間（江戸川っ子study week!）の設定	ドリルパークを活用し、7日間×3回（毎学期1回実施）	A	A	A	・2～6年生は、ドリルパークを活用した毎日の宿題と朝モジュールを活用した基礎的な学習に取り組めた。	A	・学校で、前の学年の復習をしてくれるのはありがたい。また、カルテで苦手なところが分かるのが良い。	A	・家庭学習週間を予定通り実施し、ドリルパークを有効に活用しながら基礎・基本を習得を図ることができた。	A	・家庭学習の習慣を身に付けることにつながった。	・学年に応じて、家庭学習の課題の出し方を工夫していく。
	・読書科の更なる充実	・学校図書館を活用した探究的な学習の実施	・各学年学期に1回程度、探究的な学習を実施	B	B	B	・学校図書館の書籍を効果的に活用して探究的な学習に取り組めた。	B	・総合的な学習を拝見していて、情報を上手にまとめられている児童がたくさん見られて驚いた。	B	・各学年、学校図書館を有効に活用して、探究的な学習に取り組むことができていた。	A	・家で読書をする時間が増えた。	・各学年で計画的に探究的な学習を取り入れていく。
		・地域図書館からの団体貸出しの実施	・低学年で月に1回、地域図書館からの団体貸出しを実施	A	A	A	・1～3年生は、地域図書館から借りた書籍を朝読書に有効に活用できた。	A	・学級文庫や団体貸し出しなど、教室に書籍がたくさんあって充実している。	A	・子供たちは進んで団体貸し出しの本を楽しみにしていた。読書活動の充実につながった。	A	・色々な本に触れることができるのが良い取り組みだと感じた。	・次年度も引き続き、団体貸し出しを行い、読書活動を充実させていく。
体力の向上	・持久力や敏捷性などの基礎体力の向上に向けた取組	・体育科授業における運動量の確保	・単位授業あたり、30分間の運動時間確保	B	A	B	・今年度、校内研究で体育科を研究していることもあり、運動量の確保も意識した授業が展開されている。	B	・いろいろと工夫しながら運動の機会を確保してもらっている。	A	・子供たちのアンケートでも96%の子供が体育の授業中にたくさん運動できていると回答していた。	A	・休み時間に担任の先生と一緒に鬼ごっこをしてたくさん走り回っていた。	・次年度も校内研究で体育科に対する研鑽を重ね、教員の授業力を向上させていく。
		・江戸川っ子なわ跳びウィーク	・年間で2週間×3回の縄跳びウィークの実施	B	A	B	・初めての取り組みに試行錯誤しながらより効果的ななわ跳びウィークになるよう引き続き改善していく。	B	・子供が縄跳びがうまくなりたいたいと言って、家で練習するようになった。	A	・友達と一緒に練習したり、連続して跳び続けるように取り組んだりして、楽しみながら体力の向上につながる取り組みとなった。	A	・縄跳びに対する意欲が向上した。休日もすすんで縄跳びをするようになった。	・年3回の縄跳びウィークの取り組み方を工夫して、児童の意欲を一層高めていけるようにする。
		・持久走週間	・3学期に2週間の持久走週間及び持久走記録会の実施	未実施	A	B	・3学期の実施に向けて体力向上ができるよう日々授業や休み時間に体を動かす機会を意図的に増やしている。	—	・未実施のため、関係者評価無し	A	・マラソンカードを用いることで、多くの周回を走れるように頑張っている姿が多く見られた。	A	・記録会に向けて、練習する姿が見られ、頑張っていた。	・持久走週間以外でも、体力向上につながる運動を意図的に取り入れていく。
実現に向けた共生社会の教育の推進	・特別支援教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・特別支援全体会での児童の情報共有、指導や声掛けの共通理解	B	A	B	・全教職員で情報共有を図りながら組織的に対応することができている。	B	・担任だけでなく、学年の先生たちも一緒にみている。	B	・情報共有と指導や声掛けの共通理解を図ることで、子供一人一人に応じた関りを全教員で行うことができた。	B	・担任だけでなく、学年の先生たちも一緒にみている。	・次年度も全体会や生活指導タ会で共通理解を図りながら、全教員で組織的に対応していく。
		・エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルームの活用について、共通理解を図り、常時担当者を配置	B	A	B	・担当者を決めて常時配置することにより効果的にエンカレッジルームを活用できている。	B	・担任だけでなく、様々な先生が声を掛けてくれている。	B	・エンカレッジルームに担当者が常駐することで、いつでも、すばやく適切な対応を行うことができた。	B	・担任ではない先生も丁寧に対応してくれた。	・エンカレッジルームの充実に向けて、担当者の常駐を継続していく。
		・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援コーディネーターが鹿本学園と連携を取り、毎学期1、2回交流を実施	B	B	B	・鹿本学園と連携を図りながらお互いにとって良い経験になるよう検討を重ねている。	B	・子供にとっていろいろな人とかかわりをもつことは大切だと思います。	B	・クラスで一緒にできるボールゲームを考え、実践することによって、他者理解につながった。	B	・体を動かしながら、楽しく交流活動に取り組んでいた。	・引き続き鹿本学園と連携を図りながら、双方にとって有意義な交流を計画していく。
不登校・いじめ対応の充実	・子どもたちの健全育成に向けた取組	・不登校対策の実施・充実	・校内委員会の設置やSC、外部（SSW）との連携強化	B	A	B	・学年、校内委員会を活用しながら不登校児童に対応することができている。	B	・担任だけでなく様々な先生が声を掛けてくれている。	A	・担任だけでなく、多くの教員で対応に当たることで、子供と保護者を適切に支援していくことができた。	B	・担任だけでなく、様々な先生が声を掛けてくれた。	SC、SSWとも連携を図りながら、不登校児童にとって最善の支援を行えるようにしていく。
		・教育相談の強化	・毎学期1回の希望者による保護者相談日の実施	B	A	B	・20近くの家から希望があり、相談日を有益に活用することができた。	B	・日常のちょっとした疑問や不安を聞いてもらえる機会を設定してもらえてありがたい。	A	・2月実施の保護者相談では、進級に向けた悩みや課題などを保護者と共有することができた。	A	・次年度に向けて、家でフォローすべきことが分かってよかった。	・次年度も学期に1回の保護者相談日を設けて、家庭との連携・信頼を構築していく。
		・hupaer-QUの活用	・個人面談で各家庭にhyper-QUの結果を還元	未実施	A	B	・12月実施の個人面談にて結果を還元できるよう共通理解を図っている。	—	・未実施のため、関係者評価無し	B	・個人面談の際にhyper-QUの結果を共有することで、学校での課題について保護者に対して、説明することができた。	B	・返却された結果を見て、子供が充実した学校生活を送れていることが分かり、安心した。	・次年度はL-Gateを活用して、家庭との情報共有を図っていく。
地域社会（園）の開かれた実現	・地域社会に開かれた学校の実現に向けた取組	・自校取組の積極的な発信	・各学年毎週1回以上の学校日記更新 ・HPにて給食の献立を毎日更新	A	A	A	・昨年度に比べて大幅にHPを更新することができている。	A	・頻繁に学校日記が更新されることによって、学校の様子がよく分かってありがたい。	A	・学校日記の更新を1年間継続して行うことができた。	A	・HPをこまめにアップしてくれて、学校の様子がよく分かった。	・引き続きHPのこまめな更新を行っていく。
		・学校公開の実施・充実	・学校公開では、好きな学級を参観できる完全自由参観の実施	A	A	A	・自由に各教室を歩き来ることによって、保護者に学校全体の雰囲気を感じてもらうことができた。	A	・一つ上の学年の授業を参観して、来年に向けての見通しがもててありがたい。	A	・年4回の学校公開を通して、子供の頑張っている姿を見ることができた。	A	・普段の子供の頑張っている様子を見ることができた。	・年3回の学校公開で、少しでも保護者に学校の様子を伝えていけるよう工夫していく。
		・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・年間1回の保護者アンケート及び年間3回の学校評議委員会の実施	B	A	B	・一回目の学校評議委員会で、今後の本校の教育活動にとって有益な意見をいただいた。	B	・学校とコミュニケーションを取れる機会としてこれからも大切にしていきたい。	B	・3回の評議委員会を通して、次年度に向けてのご意見をいただくことができた。	B	・引き続き学校と連携・協力を図っていきたい。	・次年度は保護者アンケートを2回に増やし、更に学校関係者評価を得て、教育活動に還元していく。
教育の特色ある展開	・一部教科担任制の推進	・3年生以上による一部教科担任制 ・低学年による交換授業	・高学年は、通年で社会、理科、算数を教科担任制にて実施	A	A	A	・高学年の教科担任制も3年目を迎えて順調に教科担任制の良さを生かせるようになってきた。	B	・我が子が理科や社会、算数の授業が楽しいといっていて、以前より前向きに取り組んでいるようです。	A	・低学年の交換授業、高学年の教科担任制によって、他の学級の児童理解に努めることができた。	A	・色々な先生と授業ができて楽しいと言っていた。	・次年度も教科担任制により、質の高い授業を提供するとともに、他学級の児童理解を深めていく。
	・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・会議の精選	・夕会などを活用し、職員会議の回数を7回に削減	B	A	B	・昨年度より会議が減り、教職員が自身の仕事に打ち込める時間を確保できた。	B	・以前に比べて遅くまで職員室の明かりがついていることがなくなっている。	A	・会議の時間や回数を精選して行うことで、教員の教材研究を行う時間を確保することができた。	A	・以前に比べて遅くまで職員室の明かりがついていることがなくなっている。	・次年度も会議を増やさないために、計画的に夕会を活用していく。
		・定時退勤日の設定	・月に1度定時退勤日を設定	A	A	A	・定時退勤日には、全教職員が退勤することができていた。	B	・以前に比べて遅くまで職員室の明かりがついていることがなくなっている。	A	・定時退勤日を設けることで、教員が心身ともに健康に過ごすことができた。	A	・担任の先生がいつも笑顔で丁寧に対応してくれた。	・次年度も定時退勤日を設けていく。